

一太郎のすごいところガイド

by Kazutaro V.5

第3回 自動変換・再変換

今回は、あまりワープロ専用機には見られない機能を紹介しましょう。一太郎には、一括入力や自動変換・再変換というものがあります。

1. 一括入力

一括入力とは、とにかく急いで入力したいときに、ワープロ側が内部的な変換処理をせずに、とにかくひらがなの状態で多くの入力文字を受け付けておいて、時間ができたら変換するというモードです。口述筆記など速記を必要とされる時には便利でしょう。

(でもそんだけ早く間違えずに入力するなんて我々アマチュアには不可能ですし、そんな機会もありませんが)

2. 再変換モード

我々アマチュアでもお世話になりそうなのが、「再変換モード」です。これは入力して確定した文字を再び変換できるモードのことです。

入力・変換という一連のプロセス

が終了した段階で、同音異義語など間違えて変換した漢字を見つけたときなど、普通は再び正しい漢字を入力し直します。しかし一太郎で再変換モードで入力しておけば、直したい文字にカーソルをあわせて変換キーを押せば再び変換をすることができるというものです。

長い文章を打ち終わったときなど、変換ミスに気づかないことはよくあります。そういったときに打ち直さなくてもよいということで便利な機能ですね。

3. 自動変換

自動変換とは、字の通り、入力した文字を自動的に変換していくモードのことです。具体的には、句読点や読点の入力や長文が入力されると、自動的に変換されていきます。

今までも自動変換モードはありましたが、使えたものではありませんでした。それが今回の Ver.5 から使いものになるようになったのは、辞書が大きくなったこと・A I 変換をするようになったこと、が大きな理由と言えましょう。

元々、自動変換というシステムは ATOK5 の時、つまり一太郎 Ver.2 の時に採用されたシステムでした。当時は斬新なシステムでしたが、いかんせん辞書が貧弱であったため、実用にはなりません。当時を振り返ってみると、後から誤字を捜すのに大変で、当然再変換モードというものも備えてはいたわけですが、やはり人手（この場合は人の目か）によって誤字を捜すというのは、大変な労力を要しました。ですから一般に受けませんでしたし、私も最初のうちこそ使っていましたが、すぐに使わなくなりました。一太郎 Ver.2 はそのせいか短命でした。

『今、再変換可能・自動変換モードを使って入力していますが、まさに隔世の感があります。入力した文字が青色で表示されていますが、これが先頭の方から、すらすらと変換されていきます。』

『 』内は自動変換で入力変換された文ですが、このような一般的な文でしたら、ほとんど間違いなく変換できるようです。

4. 設定は

一括入力・再変換・自動変換などを行えるようにするためには、設定が必要です。

esc V L M か、esc O M で入力設定を行います。前者は一時的にこれらのモードを許可する命令で、後者は、もう一度このコマンドを実行するまでこれらのモードを維持するものです。

そんなに私は入力を急ぐわけではありませんし、なんといっても変換を自分で確認しないと気持ちが悪いと思っているので（そのうちこんなこと言うのは古いタイプの人間ということになるんだろうなあ）、もっとも実用的だと考えているのは、『再変換可能モード and 変換を自動にしないモード』です。こうしておきますと、変換キーを押さない限りは、勝手に変換したりしません。変換の速度はそう遅くありません。内部的には変換をしているようで、変換キーを押すとすぐに、変換された結果が表れます。あとは結果を先頭から確定していけばよいわけです。

が、このモードは、入力文字数に制限があるのが欠点のようです。

第3回 おわり